第４学年１組音楽科学習指導案

町田市立　小山小学校
2026年11月13日（金）5時間目
対象　第４学年１組　３３名
指導者　主任教諭　丸山由紀

１ 題材名 「せんりつの重なりを感じ取ろう」

２ 題材の目標

〇曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて気付くとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、互いの歌声や楽器の音、副次的な旋律、伴奏を聴いて、声や音を合わせて表現する技能を身に付ける。（知識及び技能）

〇旋律、音の重なり、反復、音楽の縦と横の関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように表現するかについて思いや意図をもったり、曲や演奏のよさなどを見いだしながら曲全体を味わって聴いたりする。（思考力,判断力,表現力等）

〇旋律が重なる面白さを感じ取りながら歌ったり、聴いたりする学習に興味をもち、音楽的に楽しみながら主体的・協働的に歌唱や鑑賞の活動に取り組もうとする。（学びに向かう力,人間性等）

３ 題材の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
題材の評価規準	① 曲想と旋律や音の重なり、音楽の構造との関わりについて気付いている。 ② 曲想と旋律や音の重なり、歌詞との関わりについて気付いている。 ③ 思いや意図に合った表現をするために必要な、互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付けている。	① 旋律，音の重なり、縦と横の関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴いている。 ② 旋律、音の重なり、縦と横の関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	① 旋律が重なる面白さを感じ取りながら歌ったり、聴いたりする学習に興味をもち、音楽的に楽しみながら主体的・協働的に歌唱や鑑賞の活動に取り組もうとしている。（１時間目から４時間目まで通して評価する。）

４ 題材構想

（１）児童について（児童観）

第4学年より音楽の授業を受けもっている。音楽が好きで音楽の学習に前向きに取り組む児童もいる一方、リコーダーの運指や奏法が定着していなかったり、歌唱でも楽譜を追えなかったりする児童もいる。

第4学年「歌声のひびきを感じ取ろう」では、「パパゲーノとパパゲーナの二重唱」を鑑賞し、パパゲーノとパパゲーナの2種類のカードを使い、歌声を聴き取る活動を行った。カードを用いて楽曲に合わせて用いるこ

とにより、視覚的に歌声を捉えることができ、呼びかけとこたえ、音の重なりが生み出す曲想を感じ取ることができた。さらに、題材のまとめでは、他の楽曲でも同じ音楽の仕組みが使われていることを学習した。

鑑賞で聴き取ったり学習したりしたことを生かして、歌唱で曲想に合った歌い方を工夫したり、楽曲に対して思いや意図をもって演奏したりすることと関連させるのは今回が初めてである。本題材では、旋律が重なることで生み出される魅力を理解し、お互いの歌声を生かしながら、表現する力を身に付けさせたい。鑑賞と表現の学習を関連させることで、2つの旋律の聴こえ方や音量のバランスなどにも注目し、高学年での思いや意図をもてる児童を育てることにつながると考える。

(2) 教材について(学習材観)

〇歌唱教材「パレードホッホー」 高木あきこ 作詞　平吉毅州 作曲

4/4拍子の二部形式。はずむようなリズムの前半ア の旋律と、のびやかなリズムの後半イ の旋律に対照的な特徴があり、2つの旋律を重ねたときの音楽的な効果を感じ取ることができる。

〇鑑賞教材「アルルの女」第2組曲から ファランドール ビゼー 作曲　ギロー 編曲

堂々として迫力のある「王の行進」の旋律と、軽やかな「馬のダンス」の旋律は、特徴の違いがはっきりしているため、それぞれの旋律を聴き取りやすい。歌唱教材「パレードホッホー」の2つの旋律の重なりの学習と関連付けることで、重なる旋律の面白さを味わわせることができる。後記の指導計画、曲の構成を下の表のように捉え、略して記述する場合がある。

王①	馬①	王②	馬②	王③	馬③	王+馬

(3) 題材について(題材観)

本題材では、前半と後半の旋律を重ねて歌うことができるパートナーソングとしての歌唱教材と、異なる旋律の特徴をもつ2つの旋律が反復したり重なりあったりする鑑賞教材を通して、旋律が重なった時の魅力や面白さ、重なることによって盛り上がることを感じ取らせたい。また、表現と鑑賞を関連付け、表現と鑑賞の一体化を図りたい。

5 研究主題に迫るための手だて

【自己理解】

① ワークシートを活用した考え方の変化の可視化の工夫

・「初めに感じたこと」、「友達の考え」、「学習の最後に聴いて感じたこと」の 3 段階で記録できるワークシートを活用することで友達との交流によって自分の感じ方がどのように変化したのかを可視化する。

② 担当するパートの役割・自分の声の振り返りの工夫

・「スタッカートを意識して、軽やかに歌えた」、「なめらかに音をつないで歌えた」など自分の声の出し方や表現のこだわりをワークシートに書き込み、振り返ることで、音楽的なよさや成長を自覚させる。

【他者受容】

① 考えや感じ方を伝え合い共感を深める活動の工夫

・グループ活動を適切なタイミングで行うようにする。様々な聴き方をし、楽曲を味わった後、そのことについてどう感じたのか考えを共有できるようにする。友達と伝え合い、共感し、考え方や感じ方を広げることで、楽曲に対する学びも深まり、多角的な音楽の捉え方に触れさせる。

② 支援を要する児童に向けた個別配慮の工夫

・曲の特徴や重なり合いについて考えることが難しい児童には、友達の意見を聞いて考えをまとめるようにする。

③ 「聴き役に徹する時間」を位置付ける工夫

・自分たちが歌う時には気付きにくい、「2つの旋律の重なり方」や「友達の歌声のよさ」をじっくり聴かせる。「声の重なりのよさ」、「友達が一生懸命練習して声を合わせて歌っている姿」などを伝え合う時間を設定し、お互いのよさや表現を認め合う素地を養う。

6 題材の指導と評価の計画（全4時間扱い）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準 ○方法
1 本時	○「ファランドール」2つの旋律の特徴を聴き取る。 ・「王の行進」（1 回目）と「馬のダンス」（1 回目）の旋律の特徴を、グループで身体を使いながら感じ取る。 ・気付いたこと、感じたことを発表し合う。 ・反復していることに気付く。 ・「馬③」の後曲の構成を推測する。 ・「王＋馬」の部分を鑑賞し、旋律の重なりを確認する。 ・ワークシートにまとめる。	・2つの旋律の特徴や反復、重なりと曲想との関わりを感じ取れるようにする。	・曲想と旋律や音の重なり、音楽の構造との関わりについて気付いている。 ○行動観察、発言、記述。
2	○「ファランドール」の旋律の反復や重なりが生み出す響きの面白さや美しさを感じ取ったり味わったりする。 ・2つの旋律の特徴や曲の構成について確認する。 ・この曲のよさとその理由についてグループで話し合う。 ・話し合ったよさを確かめながら、曲全体を味わって聴く。 ・ワークシートにまとめる。	・曲の構成をとらえ、2つの旋律の反復や重なり合うよさや面白さを味わって聴くことができるようにする。	・旋律、音の重なり、縦と横の関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴いている。 ○行動観察、記述
3	○「パレードホッホー」のア・イの旋律の特徴の違いに気付き、その違いを表現する。 ・アとイの旋律を歌ったり身体表現したりして、旋律の特徴をつかむ。 ・アとイの2つの旋律を重ねて合唱する。 ・ワークシートにまとめる。	・2つの旋律の特徴と曲想との関わりについて気付き、その違いを生かして歌うことができるようにする。	・曲想と旋律や音の重なり、歌詞との関わりについて気付いている。 ○行動観察、演奏聴取、記述
4	○「ファランドール」で学習した音が重なるよさを生かして、声を合わせて歌う。 ・2つの旋律の特徴を生かし、重なる部分をどのように歌ったらよいかを考えて歌う。 ・表現の工夫について考えたことを生かしてクラス全体で歌う。 ・ワークシートで振り返る。	・2つの旋律が重なり合うよさを生かし、表現を工夫して歌うことができるようにする。	・思いや意図に合った表現をするために必要な、互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付けている。 ・旋律、音の重なり、縦と横の関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。 ○演奏聴取、記述

7 本時の学習（1／4時間）

（1）本時のねらい

2つの旋律の特徴や反復、重なりと曲想との関わりを感じ取る。

（2）展開

	学習活動	・指導上の留意点 ○評価(評価方法)
導入	1 題材へ興味を持つ。 ・「ファランドール」という楽曲名からどんな音楽かを想像する。 ・楽曲の冒頭部分を短く聴かせる。 「低い音が聞こえた。」「行進しているみたい。」「怖い。」	・ファランドールという言葉だけを提示し、深堀りはしない。 ・児童の発言を受け、自分が気になった音や感じたことを大切にしながら聴くように促す。
展開	2つのせんりつのとくちょうを聴き取ろう 2 「王の行進」と「馬のダンス」を聴き、 曲想を感じ取る。 【王の行進】 「『王の行進』は、低い音だから堂々としている。」「おいかけっこで重なっている部分は行列で歩いている感じがする。」「最初より人が増えた感じがする。」 【馬の行進】 「『馬のダンス』は、音がはねていてはずんだ感じがする。」「音が高いから軽い感じがする。」 ・「王の行進」と「馬のダンス」を聴き、違いを味わう。 3 「ファランドール」を聴き、2つの旋律がどのように現れるかを確認する。 他 「『王の行進』と『馬のダンス』が交互に演奏されている。」「最後は2つの旋律が重なっているな。」「曲の感じがちがう旋律を重ねても合うのだな。」「2つの旋律が重なると、曲の感じが変わるのだな。」「2つの旋律が重なると、盛り上がった感じがするな。」 4 「ファランドール」を聴き、2つの旋律の特徴、楽曲の構成をワークシートにまとめる。	・それぞれの曲を口ずさんだり、身体表現をしたりするように促す。 ・「王の行進」の部分だけを抜き出して聴かせる。 ・「馬の行進」の部分だけを抜き出して聴かせる。 他者受容① 友達と伝え合い、共感し、考え方や感じ方を広げることで、多角的な音楽の捉え方に触れさせる。 ・旋律の移り変わりや重なりを意識させるため、学級を「王の行進」と「馬のダンス」の2つのグループに分け、自分のグループの旋律が聞こえたらその場に立つように指示する。 ・反復について確認する。 ・旋律の移り変わりを聴き取れない児童が、旋律の移り変わりを視覚的に理解させるため、⇒マークのマグネットを用意し、旋律の移り変わりに合わせて教師が動かしていく。 ・2つの旋律の重なりを意識できるようにするため、重なり合う場面を取り出して聴くようにする。 ・重なりについて確認をする。 ○曲想と旋律や音の重なり、音楽の構造との関わりについて気付いている。 （ワークシート・発表）
終末	5 本時を振り返り，次回への見通しをもつ。 ・本時の学習を振り返り、ワークシートに記入する。	・本時を振り返らせ、次時の活動内容を伝え、学習の見通しを持たせる。

(3) 板書計画

〈ホワイトボード掲示〉①

反復	重なり	2つのせんりつのとくちょうをきき取ろう。

	感じ取ったこと	気づいたこと
ア 王の行進	はずむ ダーン⇒はく力	音が切れている 音が低い
イ 馬のダンス	近づいてくる はやい	だんだん強く リズムが細かい

〈ホワイトボード掲示〉②

